

### Ⅲ 今月のトピックス

#### 【米をめぐる世界の需給状況】

昨年5月に1,000ドル/トン台の水準を記録した米の国際価格は、昨年夏以降、豊作予測や世界的な経済不況による需要減退懸念から大幅に低下したとはいうものの、従前に比べ高い水準（560ドル/トン）で推移している。今また、インドやフィリピンでの減産に伴う米の価格高騰が懸念されており、両国の米需給を取り巻く状況についてみる。

#### 1 世界の米の基本的な需給構造

- (1) 世界の米の需要量は、人口の増加、所得水準の向上に伴い増加している。一方、生産量は面積が若干増加する中、主に単収の伸びにより需要量の増加に対応している。2008/09年度でみた場合、世界の生産量は4億46百万トン（日本は8百万トン）であり、そのうち貿易量は28百万トンと、生産量全体の6.2%に過ぎない。
- (2) 輸出は上位7カ国（上位からタイ、ベトナム、パキスタン、米国、インド、中国、エジプト）で9割を占めている。このうちタイ、パキスタン、米国は輸出割合が4割以上と高く、輸出を前提として生産している国とみることが出来、逆にインドや中国は輸出割合が小さく、国内消費の余剰分を輸出に回しているものと想定される（図-1）。
- (3) 一方、輸入は上位10カ国を合わせても輸入量全体の5割弱で、最も輸入の多いフィリピンでも全体の約9%であり、多くの国に広く分散している。輸入上位国にはアジア・アフリカ地域の途上国が多く、フィリピンやバングラディッシュといった年間一人当たり消費量が100kgを超える国が上位にあり、これらの国では人口の増加も多いことから今後も消費量が拡大していくと想定される。また、中東やアフリカでは輸入依存度が9割を超える国もあり、これらの国では生産基盤が弱いことから、消費量の増加が直接貿易量の増加に結びついてゆくと想定される。

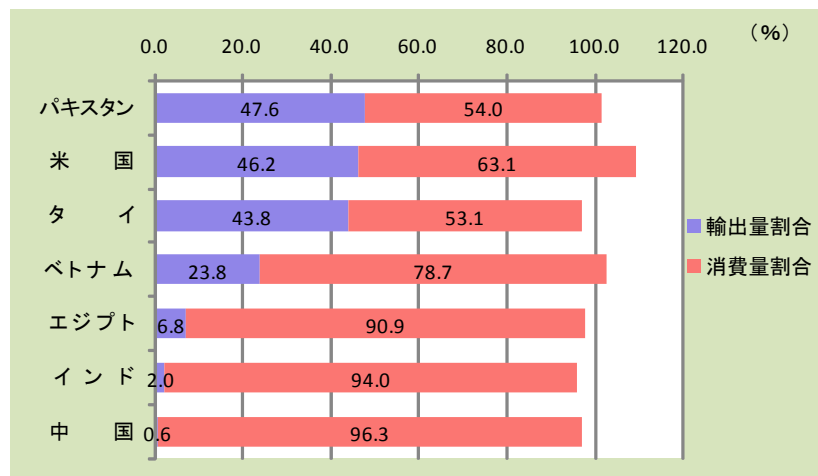
2009/10年度の米の需給に関しては、前年よりも生産量が減少する国が多く、世界の消費量は生産量を上回ると予測されている。その中でも特に、気象災害で生産量を減らすとみられるインドとフィリピンの動向が注目されている。

#### 2 インドの米需給

- (1) インドは毎年5百万トン前後を輸出してきた米の輸出大国であったが、穀物価格高騰時に、国内価格抑制のため2007年9月から米の輸出を禁止し、現在でも低価格な一般用である非バスマティ米については輸出を禁止している。

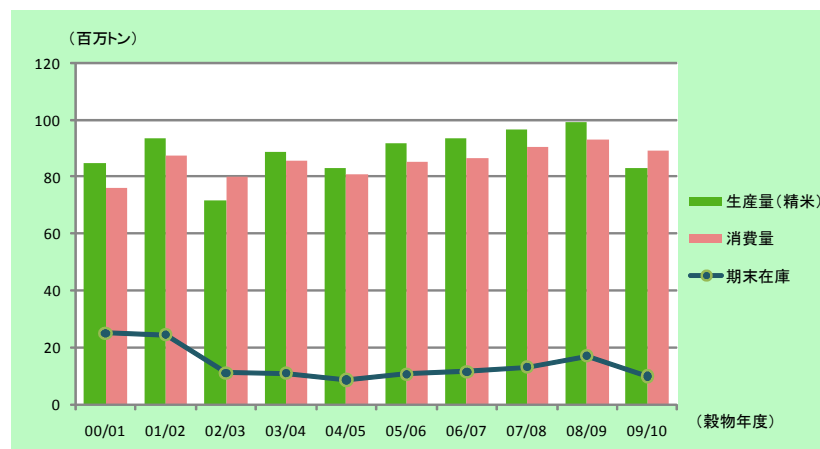
2009/10年度の需給は、6月の雨期の到来遅れと降水量不足により、雨期米の作付けや生育が大きく阻害され、9月下旬の台風に伴う豪雨と併せ、米の生産量は前年に比べ16%減少し、83百万トン（精米）と予測されている。このため、当初の需要量見込みに比べ1,450万トンの不足が生じることとなり、在庫の取り崩しや輸出の減少、小麦への消費の代替等での対応を迫られている。消費量の見込みは、小麦への代替で当初より450万トン少ない89百万トンに下方修正されたものの、需給悪化を懸念した政府は10月14日付でコメ（精米）の輸入関税70%を期限付きで撤廃し、米輸入に向けた準備を始め、10月下旬には計3万トンの輸入入札

図-1 生産量に対する輸出量、消費量の割合（2008/09年度）



資料：米国農務省「P S & D」

図-2 インドの米需給の推移



資料：米国農務省「WASDE」

を公示した。

11月20日の関係閣僚会合においては、17百万トンの豊富な期首在庫で対応可能との判断から、米の輸入についてはひとまず回避され、先の輸入入札についても撤回されている。現在は、収穫が遅れている雨期作米の最終的な生産量や、作付が進んでいる乾期作米（生産量全体の約15%）の作柄の行方が注目されているところである。

- (2) インドの米の一人当たり消費量は横ばいから減少傾向といわれる中、全体のコメの消費量は増えている。これは、人口増加によるものとも考えられるが、低所得者向けの政府配給制度における配給量が増えたことも要因の一つと考えられる。

政府は緩衝在庫用と、貧困層への目標配給制度用として、毎年かなりの量の米を最低支持価格（精米で約315ドル/トン）で調達している。低所得者層は政府発行の証明書の提示により、一般市場価格よりも安く一定量を購入できるというものである。現UPA政権は今年の総選挙で貧困者対策の充実（低所得者向けに政府調達のコメを安く配給すること）を公約して勝利していることから、配給用の米を十分に確保することが求められており、国内の相場上昇の抑制とも併せ、輸入によって調達することも選択肢として考えられるが、国際価格（25%碎米で480ドル/トン）と政府の最低支持価格との乖離が大きいこともネックとなっているようである。



農村の穀物販売店



穀物集積場に運び込まれる米



パンジャブ州の穀物集積場



州政府の米買入所



バザール（市場）での米の販売風景

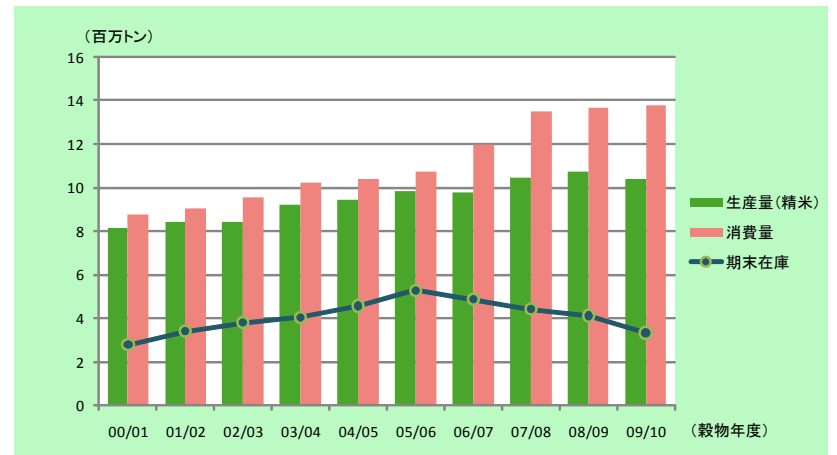
### 3 フィリピンの米需給

- (1) 一人当たりの年間米消費量は近年は横ばいであるが150kgと高く、全体の消費量は人口の増加に伴って急速に増えている。一方、生産量は10百万トン程度で頭打ちとなっていることから、2000年には140万トン程度であった輸入量が、07/08年度以降は260万トン前後に増えている。それにもかかわらず、期末在庫量は05/06年度を境に年々減少している（図-3）。

現在、フィリピンは世界最大の米輸入国となっている。生産量が頭打ちとなっている背景としては、生産性の高い優良な水田が、産業用地やバナナ、オイルパームなど他の現金作物栽培に転換されてしまったことが挙げられている。

- (2) 9月末から10月にかけて襲来した台風に伴う冠水被害で、09/10年度の生産量は前年度を下回ると予測され、政府は輸入に向けた動きを活性化させてきた。12月に60万トンずつ計3回の入札を公示しており、11月に輸入した25万トンと併せ、年内だけで200万トンを超える量を確保するとみられる。政府が輸入を急いでいる背景には、昨年の価格高騰時、ベトナムの米輸出禁止措置などで首都マニラの米が供給不安となり、政府抗議デモに発展した経緯があり、今年度は供給が潤沢なうちに早めに確保するための動きとみられる。また、インドと同様、フィリピンでも貧困者対策として低所得の家庭に米チケットを配布し、一般の価格よりも安く政府米を購入できるようにしており、政府米の確実な手当てが求められている。

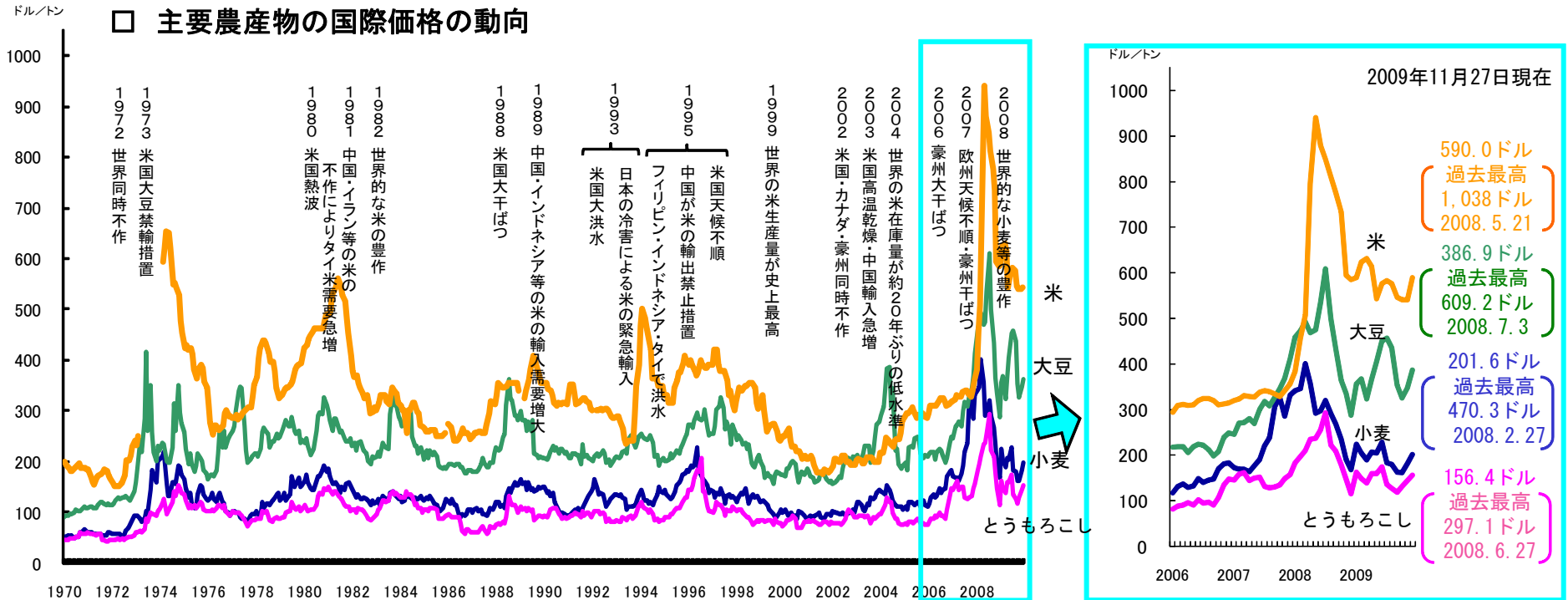
図-3 フィリピンの米需給の推移



資料：米国農務省「WASDE」

## (参考) 世界の農産物価格の動向 (ドル/トン)

- 穀物等の国際価格は、2006年秋頃から上昇基調で推移し、2008年春から夏にかけて最高値を更新。その背景には、穀物市場への投機資金流入といった要因もあるが、基本的には、① 中国等の途上国の経済発展による食料需要の増大、② バイオ燃料による需要増大、③ 地球規模の気候変動の影響といった中長期的に継続する構造的な要因のほか、輸出国の輸出規制があった。特に米は、貿易量の割合が低いことから、価格変動幅が特に大きかった。2008年夏以降は、小麦等の豊作予測などに加え、世界金融危機による投機資金の流出、世界的な不況による穀物需要の減退懸念から最高値に比べ大幅に低下した。
- 2008年末以降、南米での干ばつ、米国の天候による作付けの遅れ、中国の旺盛な大豆の輸入需要等により、穀物価格は、再び上昇基調で推移。その後米国が良好な天候に恵まれたこと等から値を下げたものの、現在でも2006年秋頃に比べ1.4~1.9倍の水準。



注：小麦、とうもろこし、大豆は、各月ともシカゴ商品取引所の第1金曜日の期近価格である。

米は、タイ国貿易取引委員会公表による各月第1水曜日のタイうるち精米100%2等のFOB価格である。

注1：各月第1金曜日(米は第1水曜日)に加え、直近の最終金曜日(米は最終水曜日の価格)を記載。  
注2：米以外の過去最高価格については、シカゴ商品取引所の全ての取引日における最高価格